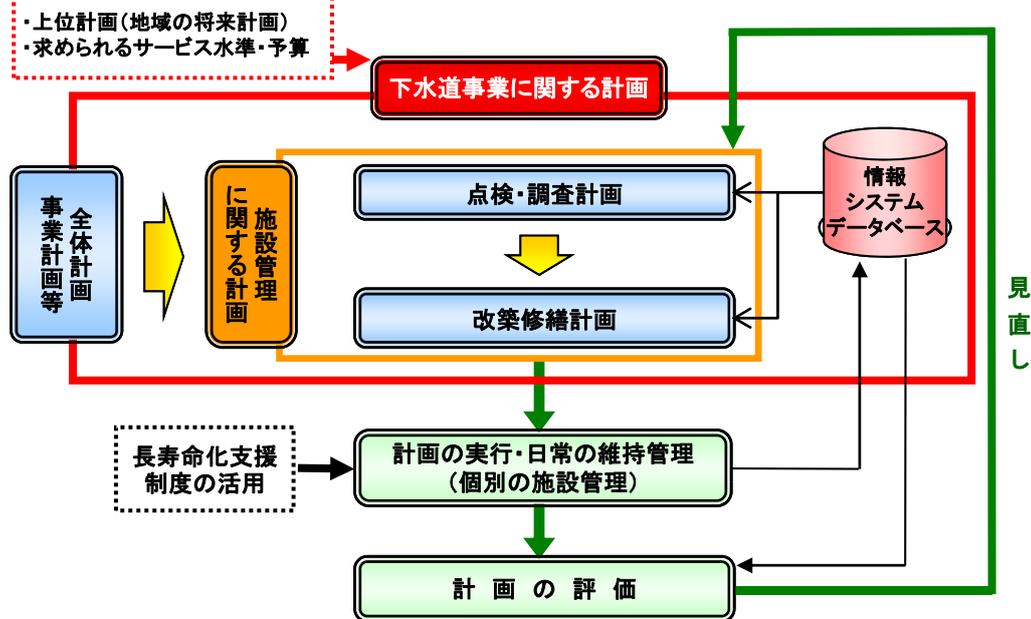


下水道施設のストックマネジメント手法に関する手引き(案)の概要

○ストックマネジメントとは

下水道事業の役割を踏まえ、持続可能な下水道事業の実施を図るため、明確な目標を定め、膨大な施設の状況を客観的に把握、評価し、中長期的な施設の状態を予測しながら、下水道施設を計画的かつ効率的に管理すること。

○ストックマネジメントのイメージ



※本手引き(案)は、ストックマネジメントのうち、主として点検・調査計画及び改築修繕計画の策定手順について記載

○手引き(案)の構成

【本編】実施事項(何をするか)等を記載。

序章

ストックマネジメントが求められる背景、ストックマネジメントの定義を記載。

第1章 総則

手引き(案)の適用対象や用語の定義などについて記載。

第2章 導入準備

今後の長期的な改築需要量見込みの検討など、導入段階で実施すべき準備事項について記載。

第3章 点検・調査及び改築修繕に関する目標設定

点検・調査及び改築修繕に関する目標(目標A)の設定及び目標Aを達成するために必要な、事業量の目標(目標B)の設定について記載。

第4章 点検・調査計画の策定と実行

点検・調査計画の策定手順やリスク等の検討事項について記載。

第5章 改築修繕計画の策定と実行

改築修繕計画の策定手順や検討事項について記載。

第6章 評価と見直し

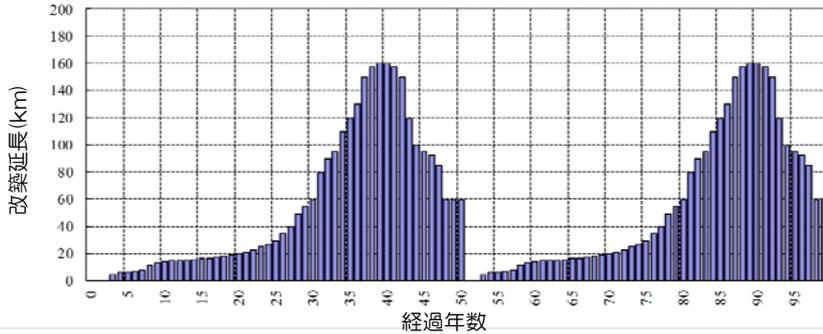
目標A、Bに対する達成度、点検・調査計画、改築修繕計画の評価と見直しについて記載。

第7章 情報システムの構築と活用

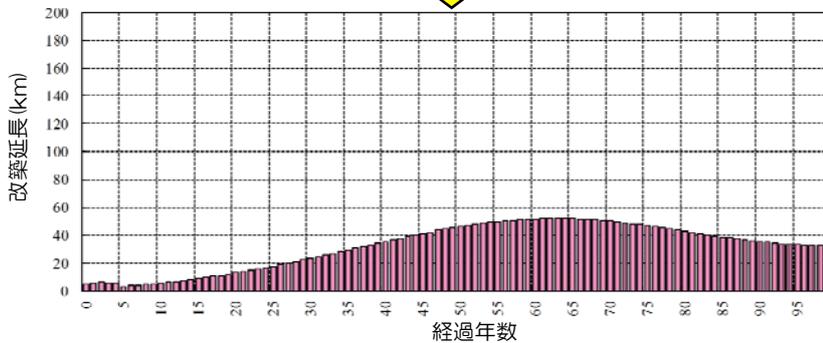
情報システム構築の考え方及びその活用方法について記載。

【参考資料編】具体的な手法(どのようにするか)や導入効果等を記載。

○今後の長期的な改築需要量見込みの計算例



目標耐用年数（50年）により単純改築するパターン



健全度の低下した路線を改築するパターン

OA市のストックマネジメント導入効果事例

<導入効果の検証方法>

現在下水道事業の保有する資産をベースとして、耐用年数で改築する「基準シナリオ」と健全度の推移に応じて再構築の時期を判断する「最適シナリオ」とのライフサイクルコスト（LCC）を比較して、今後50年間の費用削減効果を測定する。

<LCCシミュレーションの結果>

「最適シナリオ」の方が、「基準シナリオ」に比べて、50年間の建設費の投資が約1,800億円（約23%）削減できる。

※建設費の内訳：新規増設費用+改築更新費用

※A市下水道事業の有する資産

処理場：6箇所、ポンプ場：12箇所、

管きょ：2,200km

図 50年間の建設費の比較

